

# 「小河内」便り 第35号 平成27年5月

特定非営利活動法人 小河内プロジェクト（理事長 渡辺眞作）



連絡所 〒731-1171 広島市安佐北区安佐町小河内4579-3  
安佐小河内集会所内

TEL&FAX 082-835-0831

ホームページURL <http://ogauchi.web.fc2.com/>

大凡300年前の江戸時代、日本の人口3,000万人ばかりの約84%が一次産業従事者であったそうだ。農民は「士農工商」という美名のもと、生かさず、殺さずと言われ、約半分を年貢として幕府や藩に納め、武家社会を支えていた。時代が変わって平成の今日、基幹的農業従事者は205万人、総人口12,700余万人の1.6%で、平均年齢は66.1歳という。（平成22年度農林業センサス）全体の割合から見れば僅かな、しかも高齢者が日本の農業を支えている。我が小河内は一時期、農林業で2,500人が生きてきた。今は469人（27年3月）この原因は、日本の産業が一次から二次、三次へ、人が農村からと都市へ、と大量に、しかも急速に流れたから。歴史は繰り返すという。今、農業、自然志向で回帰現象が起きている。隣の北広島町では、町の定住策もあって町内への転入者数が町外への転出数を上回り3年連続で転入超過になったそうだ。（27年4月10日、中国新聞）総理府の調査によると、都市住民の30%が農村志向という。過疎のシンボリック的存在と言われる小河内であるが、「地方創生」に象徴されるように今に小河内にも光が当たってくることを信じ、今期も小河内が元気になるよう、活動していきたい。一層のご支援をお願い致します。

## 目次

|                    |       |
|--------------------|-------|
| 第5期（平成27年度）総会のお知らせ | P 1   |
| 田舎暮らし体験塾の設立        | P 2   |
| 白島商店会田植え（酒米づくり）    | P 3   |
| 共同募金、地域テーマ募金のお礼    | P 4   |
| 石川県野々市市と「小河内」について  | P 4   |
| 小河内情報              | P 4   |
| ① 殿之城霊神社春祭り        | P 4～5 |
| ② 弥太郎君の袋詰め作業       | P 5   |
| ③ 小河内の花            | P 5   |
| 集落の現況（大釘、本郷各自治会紹介） | P 6   |
| 編集後記               | P 6   |

## 第5期（平成27年度）総会のお知らせ

第5期（平成27年度）総会を次のように行います。

正会員様には、別途ご案内します。賛助会員様はオブザーバーとして出席できます。議決権はありません。

### 記

日時 平成27年6月21日（日）13:30～15:00

場所 小河内集会所2階大ホール

議題 第4期事業報告、収支決算報告、監査報告

第5期事業計画案、活動予算案

役員改選 等

## 「田舎暮らし体験塾」の設立

これまで、農業体験やツーリズム等で述べ1000人を超える都市住民が小河内を訪れ、アンケートから豊かな自然や農村文化の残っている小河内に感動した、と喜ばれた。しかし、受け入れ側の高齢化による運営上の問題や移住や起業等期待していた効果がなかった。こうした反省から、区の助成を受けて、農村の暮らしや農村ビジネス起業、移住等、農村問題（活性化）に関心ある都市住民30人ばかりを「田舎暮らし体験塾生」として募集、イベントや小河内の伝統行事等に参加、ワークショップ等で住民と一緒に小河内の活性化を考える「田舎暮らし体験」を設立するに至った。

空き家を活動拠点に8月から来年3月まで、10回の体験を主とした講座以外に課外活動も予定している。塾生には体験を通じ外から目線で、裸の小河内を見てもらい、小河内の活性化についての答えを出してもらうことを期待している。

塾生募集はホームページや行政機関等へのパンフレットの配布、マスコミ報道等幅広く考えている。

## 共同募金、地域テーマ募金のお礼

小河内小学校閉校に伴い、新しいまちづくりを目指して、郷土意識と地域コミュニティ維持、閉校記念誌の発行等の財源として、広島県共同募金会が行う地域テーマ募金を行い、住民や卒業生、関係者に募金を呼びかけましたところ、内外から期間中（1月1日～3月31日）383件、1,769,954円（目標額750,000円）のご寄附をいただきました。皆様の小河内を思って頂くお気持ちと理解し、予想を遥かに超えるご協力に感激、感謝しております。

ありがとうございました。厚く御礼申し上げます。

浄財は大半を記念誌代に充て、残りは閉校記念式典費用に充てさせていただきます。

尚、記念誌は5月末、完成予定で6月7日の「どろ落とし祭り」時に寄付者にお渡しする予定です。それ以外の方については、郵送等でお届けする予定です。

## 白島商店会田植え（酒米づくり）

今年も白島商店会の酒米づくりの田植とさつま芋とひまわり種の植え付けが五月晴れの5月17日（日）行われ、親子40人が参加、紙芝居を見て、中食は地元女性会が用意した炊き込みごはんにとん汁で楽しいひと時を過ごした。

アンケートによると、田植えが楽しかった、郷土料理が美味かった、来年も続けて欲しい、農産物など小河内産のものを定期的に販売して欲しい、等の意見があった。

尚、19日は新しく白島小学校児童5年生（75人）による農業体験（田植え）が31日は恒例のハウス食品の農業体験「食と農と環境体験教室、広島」が行われる。



一斉に田植えをする白島商店会の皆さん



白島の子供も田植えに一生懸命だ



定番の紙芝居



午後はさつま芋植えを体験



ひまわりの種を植える



最後は小河内産のラムネが楽しみ

## 石川県野々市市と「小河南」について

資料によると16世紀半ば、加賀の国の城主「富樫正親」の三男「富樫又坐衛門」が小河南氏の居城となる牛頭城を築城した、とある。

昨年3月、石川県野々市市から富樫氏頌徳会の富樫氏資料研究会一行が当地に来られ、小河南の富樫氏縁の地や箇所を見学された。今年5月22日、同市を訪問（迫田）、資料館や富樫氏銅像を見学、同研究会の佐久間会長らと懇談した。500年も前、加賀の国とこの小河南に縁があったことにロマンを感じる。同市と新たな視点で町おこし、交流が始まることを期待したい。尚、同市は金沢市に隣接した平野部で小河南（約20km<sup>2</sup>）より狭い面積（約13.5km<sup>2</sup>）に51000人が住む若者が多い都市。市政要覧によると、住みやすさランキング「利便度」と人口増加率が日本一だそう。



富樫公銅像（野々市市役所前）



佐久間会長（左）らと記念撮影（市役所前）

## 小河南情報

### ① 殿之城霊神社春祭り

4月5日（日）16世紀半ば、自害した小河南弥太郎を偲び氏子10数名が参列して慰霊祭が行われた。



殿之霊神社



慰霊祭で玉串を奉奠する神主



「弥太郎君」を弥太郎のお墓に備える

## ②小河内の花



風車草（大仏溝）



石斛（小峠）

## ③「弥太郎君」の袋詰め作業

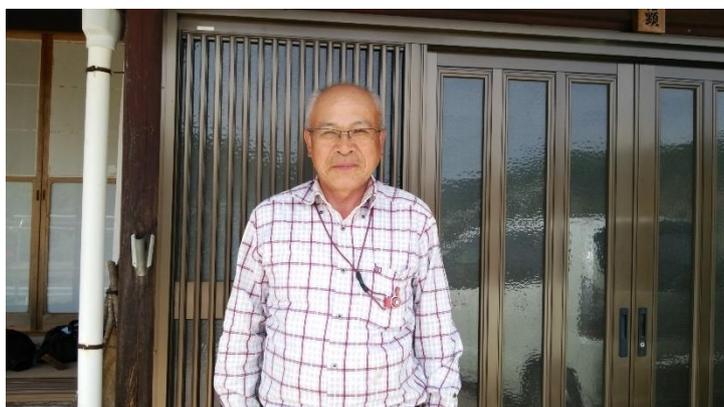


最初に木炭を6～7cmに切断、その後、杉枯れ葉、割り箸炭、木炭をそれぞれ一定重量を計量、1袋に詰める。総重量、外観等最終チェックし、15袋入りの段ボールに入れる（写真右）。これを8人程度が流れ作業で行う。（写真左）  
商品はホームセンターのナフコヤジュンテンドー、地元のスーパーフレスタで販売中。  
これからバーベキューシーズン、是非お買い求め下さい。

## 集落の現況（自治会紹介）③

469人（3月末）が暮らす小河内、3回目は小河内の北に位置する大釘と中心地の本郷の各自治会長に取材した。数字は各自治長より聞き取りしたものです。

| 自治会<br>（自治会長）   | 大釘<br>（岡崎裕顕） |       | 本郷<br>（原本 幸） |       |
|-----------------|--------------|-------|--------------|-------|
|                 | 現在           | 昭和15年 | 現在           | 昭和15年 |
| 自治会加入世帯（地区外、内数） | 7（1）         | 16    | 20（3）        | 25    |
| 総人口（現在数）        | 17           |       | 39           |       |
| 65歳以上（高齢率）      | 10（59%）      |       | 19（49%）      |       |
| 一人暮らし世帯         | 2            |       | 5            |       |
| 空き家（1年以上）       | 4            |       | 0            |       |
| 現存する廃屋          | 0            |       | 1            |       |



大釘自治会、岡崎裕顕会長



本郷自治会 原本幸会長

大釘の昼間は7人全員が65歳以上の高齢者。10年後が心配（岡崎会長）

本郷はかつて役場や駐在所、郵便局がある村の中心地であったが、一人暮らし世帯や高齢者が増え、過疎化の波は押し寄せている（原本会長）

## 編集後記

世の中には「変わらないもの」、「変わるもの」意志を込めて言えば「変えなくては行けないもの」と「変えてはいけないもの」がある。動物や植物は本能的に気候や環境に合わせ（順応）、変えて今がある。

地域や組織で「変えてはいけないもの」それはそのものの本質、小河内で言えば「豊かな自然」「農村文化」「良好なコミュニティ」だろう。これらは小河内の財産「変えてはいけない」。一方、少子化や過疎化、地場産業低下による地域衰退、活力低下は変えなければいけない。当法人設立の原点を忘れないで、地方創生、田舎志向、地方の時代、今の環境を生かしたいものである。（S）